

東京電力株式会社
代表執行役社長 廣瀬 直己 殿

福島第一原子力発電所 現地視察についての要望書

私どもは、「福島第一原子力発電所（以下「福島第一原発」という）の事故処理作業における若年者の被曝を、少しでも高齢者が肩代わりする」ことを目的として活動している団体ですが、当該事故現場について、以下の点を要望いたしますので、ご検討ください。

2012年9月14日

公益社団法人福島原発行動隊
理事長 山田恭暉

1. 要望の趣旨

当該事故現場の状況について現地視察を行いたい。
視察参加希望人員：5～10名

2. 要望の理由

福島原発行動隊（以下、「行動隊」という）は、福島第一原発の事故を受けて、「放射線被曝の影響が比較的少ない高齢者」が事故処理作業に参加することを目的に、2011年5月に活動開始いたしました。すでに2011年5月26日には、細野豪志総理大臣補佐官（当時）がご同席いただくなか、貴社ご担当者とも面談し、現地視察等についてをお願いをいたしました。その現地視察については、同年7月12日に実現し、たいへん感謝をしております。そして、同年8月3日には、その視察結果にもとづいて「退役技能者・技術者等の福島原発事故収束作業への参加に関する提案」を貴社並びに細野豪志原発事故収束及び再発防止担当大臣に提出をいたしました。

それから1年以上が経過した現在、事故現場では多数の方々が被曝をも顧みず作業しているとテレビ報道などで見聞きしています。これらの方々のご労苦を多とするとともに、その健康をも心配いたしております。

私ども行動隊はその意気にもかかわらず事故現場での作業に携わる機会を得るにはいたっておりません。事故現場において今後、私どもがどのようにお役に立てるのかを検討するためにも、今回、改めて現地視察を行いたいと考えた次第です。

私ども行動隊には、すでに600名以上の作業志願者が登録をしているところから、こうした有志人材の活用方法につき、ぜひとも、貴社とともに検討したいと考えておりますので、よろしくご配慮のほど、お願い申し上げます。